

オニイソメとクモヒトデ

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

京都大学白浜水族館をご利用になった方々の中には、今回登場する生き物を記憶されている方もいらっしゃると思う。来館者の奇声が聞こえるの

は、おおかたこのグロテスクなオニイソメやクモヒトデを收容している水槽周辺からだ。

奇声上がるポケット水槽



モヒトデ綱に属する動物の総称で、日本沿岸からは約300種が知られている。普通のヒトデと違って、中心部分の盤をそこから伸びている腕との区別がはっきりしている。5本の腕は細長く、しなやかによく動き、餌

め、これらの動物を生きのまま展示するには、いくつか工夫しなければならぬ。そこで、ゴカイ用とヒトデ用水槽のガラス面上方に、奥行きが1〜1.5センチしかない塩ビ製の容器を内側から張り付け、この中にオニイソメとクモヒトデをそれぞれ收容している。わたしたちはこれらをポケット水槽と

呼んでいるが、これによって両種とも長期に及び飼育展示ができるようになった。オニイソメはけんかをするため、1匹しか收容できないが、クモヒトデは、そばに別の個体がいなくても平気なために、アカクモヒトデやウデナガクモヒトデなど数種を同居させている。ポケット水槽は暗いため、ライト付きのルーペを水槽の横に取り付けており、来館者にこのルーペを通して細かな形態や動きを間近に見てもらおうとしている。普段はほとんど目につくことがないこれらの動物を、できるだけ多くの人に見てもらい、多様な海の動物への理解を深め、興味を持ってもらいたいものである。(京都大学技術専門職員)

7

太田 満

オニイソメはゴカイの仲間(環形動物門・多毛綱)で、日本沿岸に生息する最大種の一つとされ、成長すると1メートル以上になる。クモヒトデは棘皮(きょくひ)動物門・クモヒトデ綱に属する動物で、石の下や岩の割れ目などに潜んでいる。両種とも、石の下や岩の割れ目などに潜んでいるため、狭くて暗い所を好む性質がある。このた

を集めたり、速やかに移動したりするのに適している。両種とも、石の下や岩の割れ目などに潜んでいるため、狭くて暗い所を好む性質がある。このた